



善前小だより

No.2 平成30年5月号

5月1日 発行

住所 南区太田窪2500番地1

電話 882-7871 FAX 811-1329

ホームページ <http://zenmae-e.saitama-city.ed.jp>

「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずむ心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

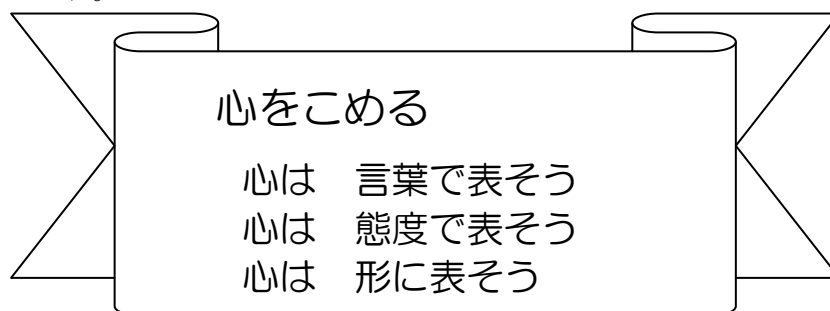
心をこめる

校長 小田切 倫子

木々の若葉が緑を増し、さわやかな風が通り抜ける、すがすがしい季節となりました。平成30年度がスタートして1か月が経ち、子どもたちは新しい生活にも慣れ、生き生きと活動しています。

始業式、初めて出会った子どもたちに、私から1つ、お願いをしました。そのお願いとは、「あいさつをするとき、目を合わせてくださいね」ということでした。毎朝、4つある校門を順番にまわって子どもたちを迎えているのですが、子どもたちはしっかりと目を合わせてくれています。中には、笑顔であいさつをしてくれたり、丁寧にお辞儀をしてくれたり、「校長先生～」と言葉を添えてくれる子どももいます。

あいさつの重要性については、改めて言うまでのことはありませんが、私は、あいさつには“あなたを大切に思っています”という“心”を伝えるメッセージが込められていると考えます。「おはようございます」と言葉を交わすことで、コミュニケーションが生まれます。目を合わせたり、お辞儀をしたり、笑顔で言ったりすることで、あたたかな“心”を感じることができます。“心”は目には見えません。“心”は、『言葉』や『態度』、『形』に表すことで相手に伝わります。「心をこめる」ことで、単なる『作業』ではなく価値のある活動になるのです。



話を聞く、字を書く、作品を作る、掃除をするなど、日々の学習や生活の様々なことも、「心をこめる」ことで意味深いものとなるのではないのでしょうか。何かに取り組むとき、「がんばろう」「きれいにしよう」「相手に喜んでもらおう」といった“心”をこめ、そのことを『言葉』や『態度』、『形』に表すことが、すばらしい結果を生むのです。例え思うような結果にならなくても、“心”をこめて行った、その過程に大きな意義があるのです。

善前小学校では、日常の様々な活動にどのような“心”をこめさせるかを大事に、教育活動を展開してまいりたいと思っています。

子どもたちが心のこもった行いができるよう、家庭や地域の皆様のご指導、よろしくお願いいたします。